

市立

いちかわ

自然博物館だより

平成30年(2018年)

2-3月号

(通巻 174号)

2017年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！

いきもの
写真館



自然博物館収蔵写真

アオカワモツク
カワモツク類は湧水の流れに生える藻類です。早春、ヨシの枯れ茎などから伸び（矢印）、流れに揺らぎます。

P1 ☀️ いきもの写真館
アオカワモツク

P2 ☀️ 長田谷津を解剖する
ハンノキ林の遷移
/ 3

P4 ☀️ 身近なところに花鳥風月
スズメ

P5 ☀️ 街かど自然探訪
二俣新町・埋立地の工場街

☀️ くすのきのあるバス通りから
川のようにすを見て歩きました

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
外国産の虫たち

P7 ☀️ わたしの観察ノート
11月～12月の記録

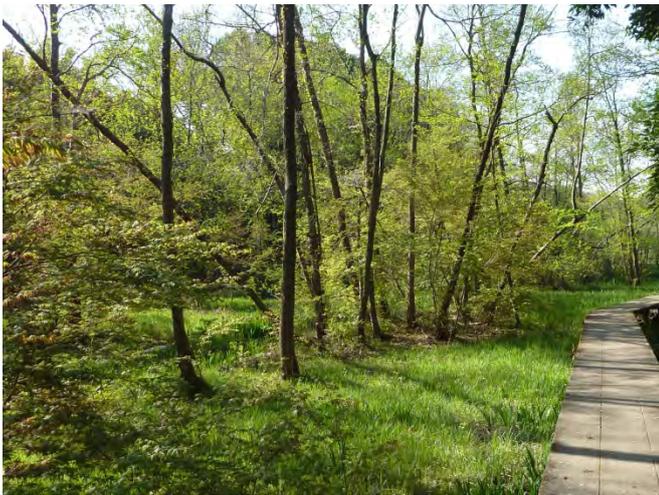
P8 ☀️ 行事案内

長田谷津を解剖する

ハンノキ林の遷移

谷底のハンノキ林

長田谷津の谷底には、ハンノキが群生している場所があります。もともとは隣接する住宅が公園内から見えなようにするために植えたものですが、それが増えて現在のようなハンノキ林になりました。ハンノキは低湿地を好む樹木なので環境的にはぴったりで、次第に増え（おそらく実生で）、林を形成していきました。一般的なハンノキ林の景観は、湿地や水辺にハンノキだけが立ち並びますが、長田谷津では時間の経過とともにハンノキ林に低木が茂るようになりました。



ハンノキ林の景観

低木が葉を広げている。

ハンノキの根元から生える

低木の生え方には特徴があります。それは全体に一様に生えるのではなく、ハンノキ1本ずつの根元に集中して生えているということです。

よく見るとハンノキの根元は太い根が枝分かれして露出しており、そこに土がたまって盛り上がっています。盛り上がって

いるのでビチャビチャした状態ではなく、やや乾いた状態です。そこに低木が生えているのです。



ハンノキの根元から生える低木

盛り上がって乾いている分、湿地の草が生えていない。

根元の盛り上がりは高さ10cm～20cm前後のものが多く見られますが、中には50cmを超えるものもあり、それは一見すると木が生えた島のように見えます。



高さ 50cm を超える盛り

太い幹がハンノキ（株立ちした2本が目立つ）。まわりに低木が群生する。

多様な樹種が見られる

博物館では、それぞれの盛り上がりによってどんな種類の木があるか、調査を行っています。まだ途中なので結論的なことは言えませんが、これまでにいろいろな種類が確認されました。本数がもっとも多いのはイロハモミジで、そのほかイヌツゲ、イボタノキ、イヌザクラ、サクラ類（種類は不明、雑種の可能性が高い）が目立ちました。また、アカメガシワ、エゴノキ、エノキ、ムクノキ、マユミ、ニシキギ、トウネズミモチ、ミズキ、アオキ、シロダモ、コブシ、ハリギリ、シラカシ、ヤツデなどがあり、小さなモミの実生も確認できました。



イロハモミジが群生した状態

モミジの本数が多く、紅葉の季節には「もみじ谷」のような景観をかもしだす。

低木が生える仕組みは、つぎのとおりです。まず、ハンノキの根元に土がたまり、湿地ではない、やや乾いた土の場所が生み出されます。そこに風でモミジなどのタネが飛んできます。湿地では発芽できませんが、普通の状態の土なら発芽できるというわけです。また、ハンノキの枝に来た鳥が糞をします。そのなかにはイヌツゲやイボタノキ、イヌザクラなど、近くで実をつけ

ている樹木のタネが入っています。それもまた、普通の状態の土でなら発芽できるというわけです。イロハモミジの本数が多いのは、近くに母樹（実をつける木）がある上に風散布なので、鳥散布による種類とはけた違いに大量のタネが供給されるからです。

ここで重要なのは、生えている種類がまわりの斜面林に生えている種類と共通ということです。つまり、谷津に生える樹木については、ハンノキやヤナギ類は湿地に特有と言えますが、それ以外の種類は台地上でも斜面でも、また谷底でも共通に生えるということです。

谷底

=湿っている

=湿地性の種類だけが生える

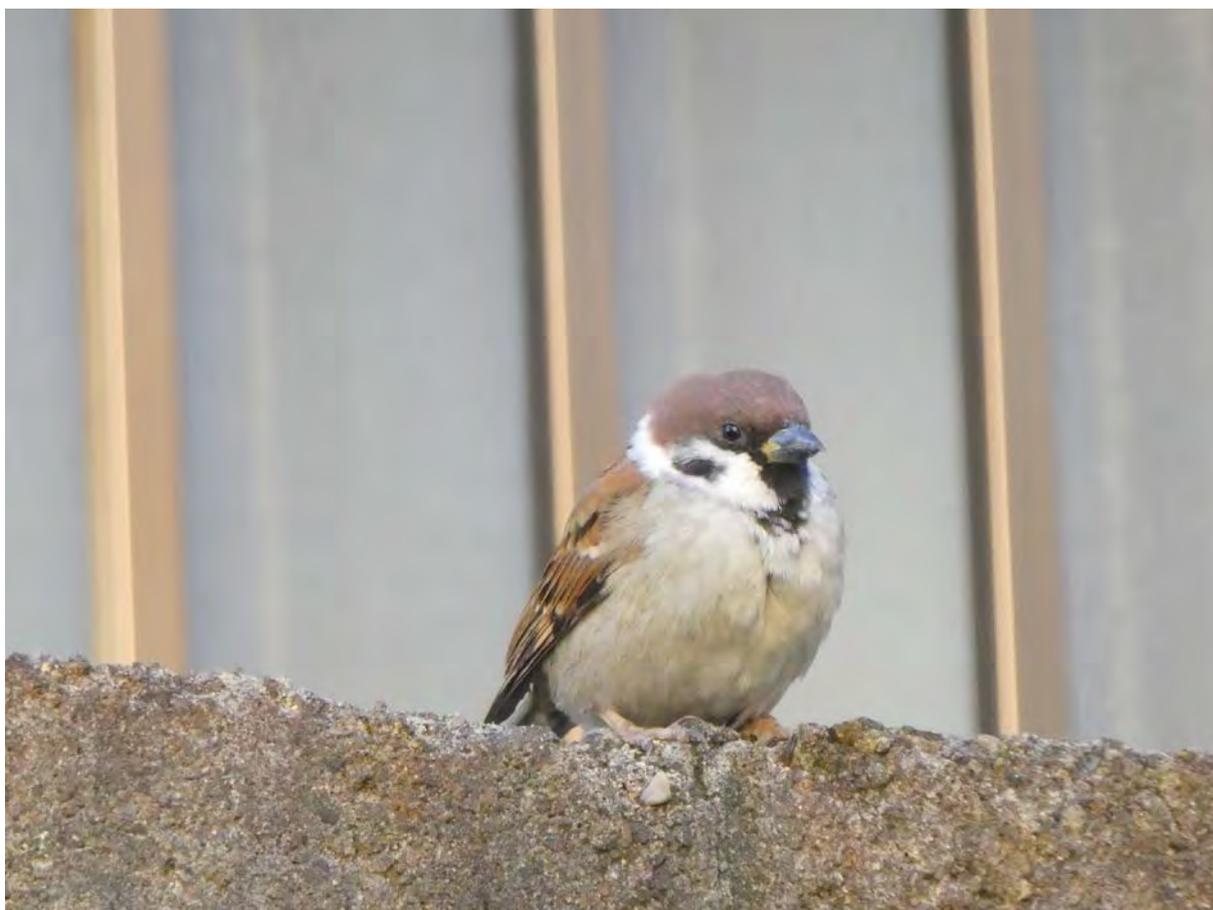
という図式は成り立たないわけです。

今回は、調査を進めながら記録が終わった低木を伐採しています。園路からの見通しが阻害されているからです。低木を切った後の景観は、ハンノキだけが立ち並ぶおなじみのハンノキ林になりました。



低木を切った状態

手前が切った場所。奥は低木がまだある状態で見通しがきかない。



スズメ

身近なところに花鳥風月

当館学芸員の自宅の庭で出会ったさまざまな生き物を、
このコーナーでは紹介しています。

庭にいろいろな野鳥が来てほしいのですが
樹木を植えていなくて、餌台もないので
訪問者は期待ほどではありません。

近所からはメジロやシジュウカラの声が聞こえるのですが……

プランターで稲を育て、脱穀などもするせいか
スズメはおなじみのお客さんです。

ブロック塀にまず止まり、安全を確認してから降りてきます。

リーダーがいて全体を統率しているように見えます。

近所のネコの巡回ルートにもなっているので安全第一です。



街かど自然探訪

おじゃまします!

ふた また しん まち
二俣新町

・埋め立て地の工場街

JR京葉線の南側、海側は埋立地です。ふなばし三番瀬海浜公園へ向かう道の、左側が船橋市、右側が市川市で新港大

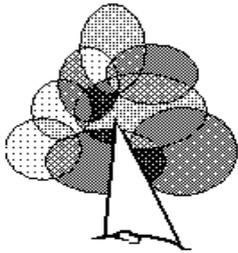
橋の手前までが二俣新町です。ふつうは車で通過してしまいましたが、大型車が行き交う道沿いを橋まで歩きました。



△新港大橋からの眺め、市川二俣新町方面。奥の水路は、真間川の河口(右手)からの流れ。



△新港大橋からの眺め、船橋方面。習志野、千葉方面に工場街がつづく。



くすのきのあるバス通りから No.116

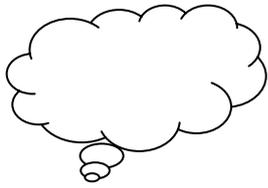
川のようすを見て歩きました

住宅地では、ロウバイやユキヤナギ、紅梅が咲き、コブシのつぼみが少し大きくなったような気がします。22日午後からの雪は20cm位積もりました。気温は低いですが日差しで思ったより早く融けてしまいました。

学生時代使っていた軽登山靴のソールを張り替え、あちこち歩いています。春木川の上流はどうなっているのか気になり行ってみました。水質浄化施設があるせいか、大柏川より透き通っています。稲越の調節池から聖徳学園付近の護岸はジャカゴが使われているようで、土や草で覆われ緩やかな斜面となり、水鳥が日向ぼっこをしていました。別の日、市民プールの前の調節池に行きました。「キュー、キュー」と

鳥の声が聞こえ見ると、地面に降りていたツグミをチョウゲンボウが襲いそこねたところでした。チョウゲンボウは電柱の上へ、ツグミは泣き叫びながら杭の上に、私は両者の間になっていました。真間川や大柏川は水深があり、海からの魚がいるせいか、ウヤユリカモメが多く、水深が浅い所では、カモが逆さになって水草を食べたり、流れてくるものを食べ、護岸に登れる場所で休んだりしているのを見ます。汚い川と言われていた春木川や派川大柏川でカワセミが水に飛び込むのを見ました。カダヤシでも捕ろうとしたのでしょうか。ここ数年市川市に限らずオオバンを見かけます。

(M. M.)



展示室

No.18

飼育生物の話題



上：パプアキンイロクワガタ

右：アトラスオオカブト

外国産の 虫たち



自然博物館の展示室前ロビーには、ご来館くださったお客さまを迎えるウェルカム展示がいくつかあります。一番人気は金魚の水槽に入れてある空気仕掛けのカバですが、外国産甲虫の飼育展示も人気があります。原稿執筆時点ではパプアキンイロクワガタとアトラスオオカブトの飼育ケースがあります。以前にはニジイロクワガタやギラファノコギリクワガタも展示しました。虫たちは、外国産甲虫のブリーダーさんから頂くもので、繁殖目的なので最終的に不要となり観賞用として飼育しているオスをわけていただいています。いまは図鑑やテレビで外国の生き物に関する情報（特に動画や画像）があふれかえっていますが、案外、大きさの実感は伝わらないものです。パプアキンイロクワガタの小ささに驚く声が時々聞こえます。

熱帯性の種類が多いため、飼育ケースは保温と加湿が不可欠です。保温は小型のペットヒーターを使い、虫たちがヒーターに触れないようにビーカーに入れ、隙間にセラミックのろ過材を詰め、上にガラスのお皿をのせてあります。加湿は床材に園芸用の水ゴケを用いることで対応しています。年末年始はロビーに暖房が入らないため、学芸員が自宅に持ち帰って世話をしました。

わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・ニホンアカガエルの産卵場所のそばで繁茂した草を刈ると、隠れていたアカガエルが跳ねて逃げていきました(11/26)。隠れ場所がなくならないように、いつも草刈りは軽めにしています。地面が露出するまで刈ることはありません。
- ・長田谷津には、イロハモミジがたくさん植えられた区画があります。今年は何れも色づき、例年にない美しさでした(12/2)。コナラも赤く色づき、雑木林の紅葉も鮮やかです。
- ・木々の葉がすっかり落ち、小鳥が見やすくなりました。観賞植物園前のモミジにエナガの群れが来ていて、にぎやかでした(12/24)。

◆大町より

- ・道沿いの電柱の上方がオレンジ色なのに気付きました(12/16)。カキ?と思ったらツルウメモドキでした。電柱から電線までツルが伸び、びっしりと実がついていました。

◆じゅんさい池縁地より

- ・ビナンカズラ(サネカズラ)は、植物そのものは普通にありますが、花や実を見る機会は少ないです。ツルが這い上がらないと咲かないみたいです。ここでは園路から間近に赤いつややかな実を見ることができました(11/25)。

◆中山より

- ・桜の木の本の幹の窪みにヨコヅナサシガメが群れていました(11/7)。すっかりおなじみの越冬風景です。

- ・ビワの花が咲きだしました(11/7)。かわいらしい花ですが、実ほどは注目されないみたいです。

◆平田より

- ・諏訪神社のクロマツを見に行きました(12/12)。頭上でパチパチ音がしていたので見上げると、カワラヒワやスズメが松の葉に見え隠れしていました。ちょうどまつぼっくりが開いていて、マツのタネを食べているようでした。足元を探すと、きれいに割れたマツのタネが、いくつも落ちていました。

◆市川南ビオトープより

- ・江戸川の河川敷に設けられたビオトープのそばに、見慣れない可憐な花が咲いていました(12/1)。アオイ科であることはひと目でわかります。ヤノネボンテンカという帰化植物でした。

◆江戸川放水路より

- ・雨降りの日の堤防は行き交う人もなく、河川管理用のスピーカーの上でチョウゲンボウがのんびりと羽根を休めていました(11/14)。
- ・カキ殻の片づけに参加しました(12/4)。殻の下にはケフサイソガニ類が隠れていました。殻そのものにはタマキビガイがついていました。

以上 金子謙一(自然博物館)

晴れて日中は暖かい日が多く秋の終わりは穏やかでした。12月になると霜が降りる寒い朝があり、陽射しがあっても冷たい風が吹く日が増えました。



行事案内



長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日時 3月3日㊥、4月7日㊥、5月5日㊥、 午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日時	集合場所
中山の地形探訪	3月11日㊥午前10時～11時30分	JR下総中山駅 北口駅前交番前 午前10時
春の田んぼ	5月20日㊥午前10時～11時30分	動物園券売所前 午前10時

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いして下さいませんか。(雨天中止)

- ・日時 2月25日㊥、3月25日㊥、4月29日㊥、午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けをお手伝いして下さいませんか。(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 3月4日㊥、4月8日㊥ (2月はお休みです。) 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。



臨時休館のお知らせ
 展示室整備のため
 2月20日～23日は
 臨時休館いたします。
 なお、動物園、自然観察園は
 平常通り開園いたします。

第29巻 第6号 (通巻第174号)
 平成30年2月1日 発行
 編集・発行/市立市川自然博物館
 (市川市教育委員会生涯学習部)
 〒272-0801千葉県市川市大町284番地
 ☎047(339)0477
<http://www.city.ichikawa.lg.jp/shisetsu/haku/>